

平成19年度 日本科学未来館運営業務等モニタリング

◎:当初計画を上回っている。
○:当初計画通り。
×:当初計画を下回っている。

大項目	中項目	◎○×	備考
1. 総合管理・基盤整備			
	1-1. 総合管理	○	予算執行状況を常に把握し、効率的な運営に努めることとし、予算の増減が予想されるときは、速やかに機構と協議することとする。また、この項目ではないものの、今後は全体として未来館の収入増にも努めることが求められる。
	1-2. 総務・人事・施設管理	◎	特に省エネルギー対策においての効果(対前年6.4%減)が認められる。今後も引き続き、省エネルギーや環境経営に努めること。
	1-3. 経理・管財	○	
	1-4. パートナーシップの募集・営業	○	
	1-5. 情報技術統括	○	
2. マーケティング・ブランドマネジメント			
	2-1. マーケティング機能の付加・強化	○	
	2-2. ブランドマネジメント	○	
	2-3. ヴィジュアル・アイデンティティ(V. I.)管理	○	
	2-4. 各種マーケティング・ツールの作成	○	
3. 広報(認知向上)・国際連携			
	3-1. 取材対応等	◎	広告換算24.8億円(昨年度同時期比147%)
	3-2. 未来館ホームページの運用管理	×	アクセス件数の目標値を下回っている。(業務計画での目標12,140,000件に対し、1月末時点で9,567,000件)現在検討しているリニューアルに期待。
	3-3. 国際協力(海外機関との連携)の推進	◎	ASPACホスト館としての活動を評価
4. 科学コミュニケーションの推進			
	4-1. 科学コミュニケーション推進調整・連携統括	○	今後は科学コミュニケーターの育成の効果を表すデータがほしいところ。
	4-2. 科学調査・探求	○	展示やイベントそれ自体が調査・探求の結果と思われるが、調査・探求をとりまとめたデータ(例:マップ等)がほしいところ。
	4-3. ボランティアの活用	○	
	4-4. 「友の会」の運営	×	新しい取り組みは評価するものの、友の会会員数が目標値を下回ったため。(業務計画での目標35,000人に対し、1月末時点で30,693人)
5. 展示開発			
	5. 展示開発	○	展示物に対する来館者の評価がほしいところ。
6. 展示技術管理(工程管理)			
	6-1. 展示技術統括	○	
	6-2. 展示物及び展示装置の運用管理	○	
7. ミュージアム運営			
	7-1. 運営業務調整	○	来館者アンケートによる総合評価の結果が良い(総合評価におけるポジティブ評価97%。再来館意向95%)。引き続き満足度を維持していき、来館者の増にもつながることが望まれる。
	7-2. ミュージアム展示企画	○	
	7-3. イベントの開催運営	○	
	7-4. 利用促進	○	
8. アウトリーチ展開			
	8-1. 展開業務調整	○	
	8-2. アウトリーチ展示企画	◎	委託費を使用せず、イベントなどが開催されたことを評価。(全17件、実施経費総額約2,000万円相当)
	8-3. 成果普及	○	学校連携同様に、科学館連携も更に充実を期待する。
	総合	○	一部業務計画上の目標数値において未達項目があるものの、仕様上の項目は満たしており、更に特筆すべき実績を残した項目もあることから、総合評価としては○とする。